

2018
5/23水 → 6/24日

10:00 → 17:00 月曜休館

文化のみち二葉館 2階展示室

入館料:一般200円 中学生以下無料(各種減免あり)

主催:文化のみち二葉館【名古屋市田川上貞奴邸】

〒461-0014 名古屋市東区榑木町3丁目23番地

Tel&Fax 052-936-3836 <http://www.futabakan.jp/>

稲葉京子展

花と想念の歌人



トークイベント

「稲葉京子を語る―存在を問う詩空間」

◆鼎談 / 古谷智子(渾身の花―稲葉京子ノート)著者)、

黒瀬珂瀾(歌人)、司会 大塚寅彦(中部短歌会代表)

◆日時 / 2018年6月3日(日) 13時30分～15時

◆会場 / 文化のみち二葉館 1階大広間

※入場無料(要入館料)当日先着順自由席





稲葉京子展

「花と想念の歌人」

愛知県江南市出身の歌人・稲葉京子（1933-2016）は、昭和21年に愛知県立丹羽高等女学校（現・愛知県立尾北高等学校）に入学しました。病弱で思うように学校に通えないなか、美術部、文芸部に入学して児童小説や詩を書きました。高校卒業後は、与田準一の紹介により同人誌「童話」に入会するも、24歳のときに雑誌「婦人朝日」に短歌を投稿し、入選を果たします。選者であった大野誠夫のすすめで「砂廊」のち「作風」に入会しました。また、この頃「中部短歌会」にも入会し、昭和55年には主幹で同郷でもある春日井建のもと、中部短歌会選者として活躍しました。

昭和38年に第一歌集『ガラスの檻』（作風）を刊行し、寺山修司の推薦により現代歌人賞受賞候補に選ばれ、昭和56年に刊行された第三歌集『魂の傘』（短歌新聞社）で、第六回現代短歌女流賞を受賞しました。

今回の展示では、没後に寄贈された資料のなかから、おもに歌集や歌人たちとの交流をしめすゆかりの資料などを紹介いたします。



トークイベント 「稲葉京子を語る」 —存在を問う詩空間—

作歌のテーマや創作活動の背景、人物像などについてお話いただきます。

◆開催 / 古谷智子（渾身の花―稲葉京子ノート）著者） 黒瀬珂瀾（歌人）

◆日時 / 2018年6月3日（日）
13時30分～15時

◆会場 / 文化のみち二葉館 1階大広間
◆入場無料（要入館料）当日先着順自由席

司会 大塚寅彦（中部短歌会代表）

出演者プロフィール

【古谷智子（ふるやともこ）】
1944年12月18日生まれ。中部短歌会選者。春日井建、稲葉京子に師事。歌集に『神の痛みの神学のオブリガート』『草苑』『立夏』など。評論集に『渾身の花―稲葉京子ノート』『河野裕子の歌』『都市詠の百年』『幸福でも、不幸でも、家族は家族。』など。NHK学園「友の会」選者。



【黒瀬珂瀾（くろせからん）】
1977年、大阪府生まれ。春日井建に師事。『未来』短歌会選者。歌集に『黒耀宮』『なごらみ書房出版賞』『空庭』『蓮喰ひ人の日記』（前川佐美雄賞）。富山県呉羽の願念寺住職。2017年度「NHK短歌」選者。



【大塚寅彦（おつかとらひこ）】
1961年愛知県清須市生まれ。十七歳より作歌を始め、1980年中部短歌会入会、春日井建に師事。1982年「副青天使」で短歌研究新人賞。歌集に『刺青天使』『声』『カウディの月』など。中部短歌会「短歌」編集発行人。



主催・お問い合わせ 文化のみち二葉館 【名古屋市旧川上貞奴邸】

〒461-0014 名古屋市中区種木町3丁目23番地
Tel & Fax 052-936-3836
<http://www.futabakan.jp/>
このチラシは古紙リサイクルを含んで再生紙を使用しています。

- 交通のご案内
- なごや観光ルートバスメーグル「文化のみち二葉館」下車
 - 市バス「飯田町」下車、北には徒歩2分
 - 新幹バス2号「白鰐」下車、南には徒歩5分
 - 市下鉄有線「高岳」下車、2番出口より北には徒歩10分
 - 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南には徒歩12分
- ※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



市バス・地下鉄でのお得な利用が可能です。
ドニエコきっぷ・一日乗車券を利用してご来場の方は、
文化のみち二葉館入館料割引！ 一般 **200円 ▶ 160円**



毎日利用したドニエコきっぷ等の一日乗車券を提示するだけで、名古屋市内の施設・飲食店などで割引の特典が受けられます。

※詳細は地下鉄駅で配布している特典ガイドブック「なごやナビ」をご覧ください。
※「ドニエコきっぷ」「一日乗車券」は、ゆとりーとライン（高瀬区間）、名鉄バス、あおなみ線、リニモでは利用できません。